

出穂期は概ね平年並の見込み 水管理と適期の防除で高品質米生産を！

◎ 生育診断圃の出穂予測 (7/20 調査)

品種	地域	出穂期予測 (平年差)	平年の出穂期
あきたこまち	最上町向町	8/3 (+1)	8/2
はえぬき	新庄市泉田	8/6 (-1)	8/7
雪若丸	新庄市泉田	8/7 (±0)	8/7
つや姫	舟形町富田	8/10 (±0)	8/10
はえぬき (直播)	新庄市小泉	8/11	-

いずれの品種も、出穂期は平年並みと見込まれます。

◎ 今後の水管理 【最大限気を配ることが大事です！】

これからの水管理が登熟の良否に影響します。出穂期までは、間断かん水を基本として、土壌を酸化的に保ち、根の活力を維持しましょう。

出穂期～穂揃期は、稲体が最も水を必要とする時期であるため、湛水管理で水深 2～5cmを保ちましょう。

穂揃期以降も、最大限水管理に気を配りましょう。

気象庁の1か月予報によると、向こう1カ月の気温が高い見込みです。穂揃期以降も、引き続き間断かん水を基本にします。異常高温が予想される場合は、可能な範囲で給排水を行って水を動かし、水温を下げる水管理を行いましょう。

◎ 病虫害防除

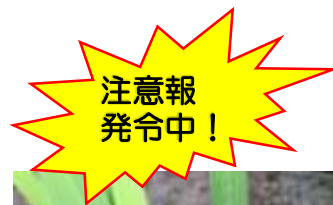
【いもち病】

7月20日に県病虫害防除所から穂いもちに関する注意報が出されました。

最上地域においても葉いもちの発生が例年より拡大しており、穂いもちの発生が懸念されます。

早急に圃場を見回り、葉いもちの発生が見られる圃場では、直ちに治療効果のある薬剤で防除を行いましょう。

穂いもち対策として、穂ばらみ後期と穂揃期の2回の薬剤防除は欠かせません。また、出穂期に葉いもちの発生が多い圃場では、穂揃期防除の7日後にも防除を行いましょう。



葉いもちの病斑

内部は灰白色、
周囲は赤褐色の紡錘形

◎ 病害虫防除

【斑点米カメムシ類】

イネ科雑草が繁茂している畦畔・農道では、斑点米カメムシ類が多く生息しています。

特に、斑点米カメムシのカスミカメ類は移動性が高いため、地域ぐるみでの対策が重要です。

以下のポイントを押さえ、高品質米の生産を目指しましょう。

畦畔・農道における斑点米カメムシ類のすくい取り虫数（7/20 調査）

地点	雑草の有無	主なイネ科雑草	すくい取り虫数
A	有	メヒシバ	55
B	有	メヒシバ	54
C	有	ノビエ	21
D	無		1
E	無		0

<ポイント1> 7月26日～8月31日は草刈り休止期間

出穂間近の草刈りは斑点米カメムシ類が水田内に侵入する原因となります。出穂前2週間を目安に草刈りを終え、8月末までは草刈りを休止しましょう。やむを得ず草刈りを行う場合は、薬剤防除の直前に実施します。

<ポイント2> 薬剤による基本防除は穂揃期とその7～10日後の2回

薬剤による基本防除は、①穂揃期と②その7～10日後の2回が基本です。基本防除後も水田内で斑点米カメムシ類が確認された場合は、2回目の防除の7～10日後に補完防除を行いましょう。薬剤は、斑点米カメムシ類の生息している畦畔にもかかるよう散布します。

【稲こうじ病】

稲こうじ菌は土壌伝染性の病害で、発病後の治療薬剤がないため、予防を徹底しましょう！

例年発生しやすい圃場や、葉色が濃く発生が懸念される圃場は予防剤を施用します。昨年発生が多かった圃場は特に注意しましょう。

薬剤防除を行う際は、ラベルをよく確認し、薬害にも留意して適期に防除を行いましょう。



稲こうじ病の菌塊

◎ 農作業中の事故に注意！！

【農薬のドリフトを防止】

農薬を使用する際はドリフトに十分注意しましょう。特に風の強い日はドリフトの危険性が高まります。

【熱中症に注意】

のどの渴きを感じる前に水分補給を行いましょう。気温が高いときは無理をせず、適切に休憩時間を設けましょう。

